

やまなし幼児教育センターだより



令和7年3月発行

やまなし幼児教育センター

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37（山梨大学内）

☎055-220-8143

幼保小の連携・接続の取組の様子（甲州市）

文部科学省は、架け橋期の教育を全国で充実させるため、令和4年度から「幼保小の架け橋プログラム事業」を実施しています。この事業では、モデル地域での実践を通じて先進事例を全国に発信しています。山梨県では、「やまなし保幼小連携・接続実践事例」（令和6年3月）や前回の「やまなし幼児教育センターだより」などを通じて、これらの取組を紹介しています。

今回は県内の取組に焦点を当て、「架け橋期のカリキュラム」の作成に取り組んだ甲州市教育委員会の活動の様子を紹介します。

甲州市では、令和5年度に協議会を立ち上げ、「幼保小の架け橋プログラム」実施に向けた3か年計画に基づき、教育委員会が中心となり取組を進めています。

計画2年目の今年度は、「架け橋期のカリキュラム」を作成するため、2回の実務者会議を実施しました。

会議では、幼児教育施設と小学校間の顔の見える関係を構築し、相互理解のための意見交換を行いました。

また、子どもに関わる大人が立場を越えて連携するため、年長児保護者、小学1年生保護者、幼児教育施設・小学校管理職等を対象にアンケート調査を行い、地域における「期待する子ども像」を作成しました。

保護者みなさんのお子さんへの願い（まとめ）

心の成長

思いやり、優しさ、人の気持ちを理解する力など、心の成長を願う声が多く見られました。

社会性

友達との関係性、集団生活への適応、コミュニケーション能力の向上など、社会性の発達を期待する声が多く見られました。

自立性

自分で考え、判断し、行動できるようになることを期待する声が多く見られました。

健康

心身ともに健康で、元気に育ってほしいという願いが強く表れていました。

アンケート集計結果より

架け橋期全期にわたり、共通理解をもって、 重点的に育みたい子ども像

言葉による伝え合い

自分の考えや気持ちを伝え、相手の話を聴くことができる子

道徳性・規範意識の芽生え

自分のことも、他者のことも大切にできる思いやりのある子

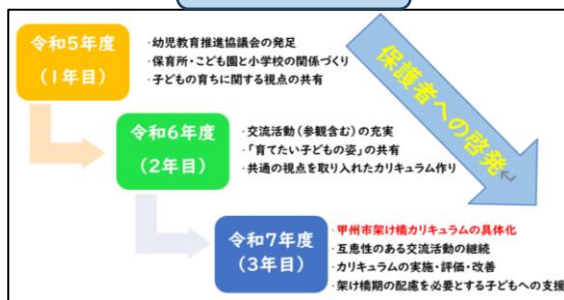
協同性

共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮し、やり遂げる子

健康な心と体

目標をもち、さまざまな活動に挑戦して困難を乗り越えようとする子

全体計画



◆幼児教育推進協議会【7月・2月】

令和6年度の取組

内容：幼児教育推進に関わる学習

参加者：幼児教育施設担当者・小学校担当者

保護者代表・幼児教育関係者・関係各課課長

教育委員会（教育委員、事務局担当）

◆幼児教育施設および小学校実務者会議【9月・11月】

内容：架け橋期のカリキュラムの作成

参加者：幼児教育施設担当者（主に年長児担任）

小学校担当者（主に低学年担任）

◆園訪問の実施【7月～8月】

内容：保育参観

参加者：小学校担当者

◆小学校訪問実施【10月～2月】

内容：授業参観

参加者：幼児教育施設担当者

関係者の御尽力により『甲州市架け橋カリキュラム』が完成しました。今後の課題は、このカリキュラムをどのように実践に結びつけるかです。そのためには、継続的な連携や情報共有の機会をつくり、活動の見通しを立てるための提案が必要とされています。

*詳しくは甲州市 HP をご覧ください。

園内研修リーダー育成研修

幼稚園・保育所・認定こども園などで、保育及び保育者の質の向上を図るためには、園内研修の実施の重要性の機運を醸成し、促進することが大切です。今年度は、園内研修を牽引するリーダーを育成するための研修会を新たに開催しました。

この研修会では、山梨大学大野歩准教授と山梨県立大学奥谷佳子准教授を講師に迎え、県内各地の園・所から応募があった 19 名が受講しました。研修は全6回にわたり、園外研修と保育現場での実践を繰り返し行う往還型で行われ、毎回レポートや園内研修実施報告などが課されました。

受講者は忙しい日常業務の中でも高い意欲を持って課題に取り組み、全日程を終了しました。

2月21日(金)には、研修成果報告会(ポスターセッション)を行い、参観者と直接対話することで研修内容を深め、その成果を多くの方と共有することができました。

講師の大野先生からは「保育を俯瞰して見る力が培われている。保育の質の向上に確実につながってきている」と高い評価をいただきました。参観者からも、「県内の園・所の様子を知るよい機会になった」「園・所の横のつながりを構築することの大切さを感じた」といった感想が寄せられました。



研修成果発表会 発表テーマ



1	言葉のイメージの共有	7	「みんなで話し合う」	13	保育を振り返って
2	ファシリテーターをし、生かしていきたいこと	8	事例発表を通じ、子どもから学び自分を振り返る	14	させるな「孤立」止めるな「流れ」努めよ「フォロー」
3	リーダーの難しさ	9	充実した職員連携	15	話しやすい雰囲気づくり
4	「語り合い」次の保育につながる研修	10	自分の意見を伝えられる会議を目指して	16	感じたままを自然に語り合える園内研修を目指して
5	「語り合い」で深めよう	11	少人数や短時間でも！	17	思っていること声にしよう
6	報告会から保育を考える会へ	12	園内研修とは保育を語ること	18	保育の振り返りができる環境づくり

各種研修会の様子

令和6年度、やまなし幼児教育センターは年間19回(園内研修リーダー育成を除く)開催しました。基本研修は12回(うち、新規採用教員研修会:全10回 18講座)、専門研修については7回で、保幼小連携・接続研修会、特別支援教育研修会、子どもとつくる保育研修、児童虐待防止研修会を行いました。

これらの研修には、大学教授、文部科学省調査官、実践家、県内研究者、教育庁指導主事など様々な分野の専門家を講師として参加しました。研修では、保育現場が直面する多様な課題がテーマとして取り上げられ、受講者から高評価を得ています。

4月上旬には「令和7年度 研修の手引き」を発行する予定です。保育の質の向上のため、来年度もぜひご参加ください。

研修内容	参加者
新規採用教員研修会	903名(延べ)
管理職研修会	69名
中堅教諭等資質向上研修会	137名
専門研修会(7回開催)	585名(延べ)



新規採用教員研修会

左: 幼児の安全な生活

右: 自然と触れあおう

